

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 1月 30日

【評価実施概要】

事業所番号	0170201545		
法人名	有限会社 プロケア		
事業所名	グループホーム ゆうあい		
所在地	札幌市北区篠路2条7丁目6番30 (電 話) 011-776-5515		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年1月29日	評価確定日	平成20年2月27日

【情報提供票より】(平成20年1月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 10月 17日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤 21人, 非常勤 1人, 常勤換算	21.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	3 階建ての	～全 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000～60,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費 20,000円
	34,000円(生活保護受給者)		暖房費 5,000円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(1月23日現在)

利用者人数	27 名	男性 7 名	女性 20 名
要介護 1	3名	要介護 2	13名
要介護 3	9名	要介護 4	1名
要介護 5	1名	要支援 2	
年齢	平均 86.9 歳	最低 70 歳	最高 101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ことに共生クリニック、やしま内科消化器科クリニック
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くに商店街があり、住宅街の中で普通の生活が実感できる立地条件が整っており、また生活しやすい建物構造で安心感のある暮らしの場となっています。職員は理念にもとづいたケアサービスに徹し、家庭生活の中での役割や一人ひとりの興味を引き出す支援が行なわれており、また、利用者の希望を聞きながら「囲碁」や「書道」をするなど健康で元気に意欲をもって生活できる支援に努めています。運営推進会議への家族の出席が多く、家族の理解の深さも大きな特徴といえます。仲良し同士の楽しい会話や笑い声があちこちから聞こえ、利用者同士や職員との良好な対人関係が伺えました。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の改善課題は全職員で話し合い改善計画書を作成し、改善の着手が行なわれています。緊急時における対応は、内部研修などで改善に取り組みれています。家族への情報提供として、インターネットを活用し「家族日記(掲示板)」を作成し利用者の生活ぶりを伝えています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 代表者や管理者、職員は、自己評価や外部評価を実施する意義は理解されていますが、本年度の自己評価で見出された課題の具体的な話し合いは行なわれていません。改善課題を明確にし、具体的な改善に向けて全職員で検討を重ね、より良いサービス提供への取り組みを期待します。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 定期的な運営推進会議が開催され、運営状況や活動報告などが報告されています。また、地域の協力事項なども議題とし民生委員・地域包括センター職員・家族などから意見が出始め、サービス向上につなげています。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 来訪時に家族と気軽に意見・要望を話せる雰囲気作りに努めており、家族から意見や要望がでた際には、迅速に話し合いケアに反映させています。インターネットを活用した「家族日記(掲示板)」が好評ですが、ネットを利用しない家族へも個別の報告を工夫し、利用者の暮らしや健康状態など家族が知りたい点を考慮した細かな情報提供を期待します。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内行事や清掃活動、地域の祭事などに職員や利用者とともに積極的に参加しています。地域住民の協力により、ボランティアとして書道や囲碁、阿波踊り、太鼓の演奏をして頂くなど、利用者の楽しみや日常の暮らしの張り合いとなっています。また、ホームの夏祭りの際には、広く地域住民に呼び掛けるなど、地域との関係作りに取り組んでいます。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念がホームの見やすいところに明示し、全職員に浸透し理念を実践するため日夜努力されているが、地域密着型サービスとしての理念の見直しや職員間での話し合いが行なわれていない。	○	現在の理念に加えて地域密着型のサービスの役割を考えながらホーム独自の理念を再度作りあげていくことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	代表者および管理者は、ミーティングや日々の申し送りなどを通して職員と共有し、理念を認識しながら利用者への支援に努めるよう日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の清掃活動、地域の行事や祭事等に職員や利用者とともに積極的に参加している。近隣のボランティアからの申し出により書道や囲碁、阿波踊り、太鼓の演奏などをして頂いたり、ホームの夏祭りに地域に折り込みチラシをだし、地域の人達との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	代表者や管理者、職員は、自己評価や外部評価を実施する意義を理解し、前回評価の改善課題は全職員で話し合いが持たれ改善計画書を作成し改善に向けた取り組みが行なわれている。本年度の自己評価で見出された課題の具体的な話し合いは行なわれていない。	○	全職員で自己評価に取り組むことで、意識あわせ、ケアの振り返りや見直しなどが可能となるため、自己評価及び外部評価のねらいや活用方法を十分に理解し、評価で見出された課題について、改善に向けて具体案の検討や実践につなげる取り組みを期待する。

札幌市北区 グループホーム ゆうあい

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議が開催され、運営状況や活動報告などが報告されている。また、地域の協力事項なども議題とし民生委員(町内副会長)・地域包括センター職員・家族などから多くの意見が出始めサービス向上につなげている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や区の管理者会議に出席し、情報交換やアドバイスなどを得ている。また、各種団体のホーム見学も受入れるなど、ともにホームの質の向上に向けて取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	インターネットを活用した「家族日記(掲示板)」を作成し家族から好評を得ている。家族の来訪時に日々の暮らしぶりや心身の状況を伝え、来訪できない家族には電話で伝えている。毎月の請求書の送付時に利用者一人ひとりの生活の様子を記載し送付しており、行事の時の写真を送付しているが定期的には送られていない。	○	インターネットを使用できない環境の家族もいるため、家族の状況に合わせた個別の報告が望まれる。ホーム内での暮らしぶりやエピソード、健康状態など家族が知りたい点を考慮しながら、事業所独自の報告方法を工夫し定期的または一人ひとりに応じた情報提供を期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族との交流を図り、気軽に意見や要望を話せるような雰囲気作りに努めている。また、運営推進会議に家族が多数出席し意見や要望を発言する場面を設けている。意見や要望に対し、迅速に話し合いが持たれケアに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員同士の十分な引き継ぎや新任者の紹介など利用者一人ひとりに合わせた説明方法を工夫するなど、利用者へのダメージを最小限に防ぐ配慮がされている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成の重要性を認識し、外部への研修参加費用などを事業所負担とし、年度計画による月例の内部研修では外部からの講師を招いて開催している。職員一人ひとりの知識や経験に応じた外部研修に交替で参加し、職員間での共有化も図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者や管理者は、管理者会議や関連会議に積極的に参加し、ほかのグループホーム関係者と接触しながら情報収集や意見交換を行なっている。また、ほかのグループホームへ訪問したり、当ホームの夏祭りに来て頂くなど、交流を通してお互いのサービスの向上を目指している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者や家族と十分に面談を行ない見学した後に入居となっている。利用者本人のペースで馴染むことができるよう配慮し、利用者や家族が安心して納得できるよう適切なサービス開始の調整を行なっている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの経験や得意なことを見極め、活躍できる場面作りの支援が行なわれている。また、利用者から生活の知恵や料理の味付けを教わったり、励まされたり労わってもらうなど、ともに支え合う関係作りが築かれている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ライフヒストリーを作成し、家族から生活歴や環境、家族構成などの情報を収集するとともに、利用者の日々の言動や表情から思いや願いを汲み取り、本人本位に検討し把握に努め、共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントシートを活用し、状況把握に全職員で係わり、課題の把握に努め日常のケアに活かせる取り組みが行なわれている。また、家族や利用者本人の思いや意向を取り入れ、職員が意見を出し合いながら介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヵ月に1度の見直しを行ない、利用者の状態に変化が生じた場合、本人・家族と話し合い、掛り付け医とも相談しながら現状に即した見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望に応じて掛り付け医への通院介助や外出時の付き添いなど、柔軟な支援が実践されている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する掛り付け医での受診支援や協力医療機関による往診などの受診支援が行なわれている。また医療連携により看護師の健康管理も行なわれている。口腔ケアの必要性を重視し、2週間に1回の歯科医師の往診も行なわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等並びにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化に関する指針を作成しており、同意書が整備され家族と方針が共有できる体制になっている。家族や利用者の意向も尊重しながら医療機関とも相談し、対処する予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りや羞恥心に配慮しながら日々のケアを行なっている。入室時の声掛けや自尊心を傷つけないようにさりげない対応に心掛けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての1日の基本的な流れや生活リズムへの配慮がされており、利用者の生活歴、体調やペースを大切にしたその人らしい生活を送れるよう支援している。		

札幌市北区 グループホーム ゆうあい

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	仲良し同士の食事の楽しい会話があちこちに聞こえ、職員も利用者と同一席に着き食事を取りながら会話を誘導している。食事の準備や後片付けなど、利用者の得意なこと・関心のあることを把握し、楽しみながら支援されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴日が決まっており、午前中に交代で入浴しているが、決められた日時以外でも希望があれば入浴でき、一人ひとりの状況に合わせた対応もされている。夜間入浴も対応できるが、現在希望する利用者はいない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできることや趣味を活かせるように支援されており、食器拭きや掃除など生活歴を活かした役割や買物や囲碁、書道などの楽しみごとの実施により日常の暮らしに張り合いや喜びを見出せるように努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買物、通院への付き添いなど、天候や利用者の気分に応じて外出支援を行なっている。車椅子や歩行が困難な利用者へも希望を聞きながら出掛けられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵を掛けない安全な暮らしについて理解しており、日中は施錠していない。職員は外出傾向のある利用者を把握しており、外出する様子の時には、さりげない声掛けや見守りが行なわれている。		

札幌市北区 グループホーム ゆうあい

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得ての定期的な防災訓練、また、利用者も参加した防災レクリエーションも実施し不測に備えているが、近隣の人々との協力体制や緊急災害に備えた物品の備蓄がされていない。	○	職員が少ない夜間帯は地域住民の協力が不可欠であるため、普段から地域の理解と協力を得るなど、夜間を想定した避難訓練等で不測に備える取り組みが望まれる。また、指定の緊急避難場所を家族に通知するよう期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の水分摂取量、食事量など個別記録され職員が情報を共有している。また、利用者一人ひとりの嗜好や状態に応じて調理方法も工夫がされている。栄養の専門家を講師に招いた内部研修が計画されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は季節を感じることでできる飾り付けが行なわれ、清潔でゆったりしており、利用者が居心地良く過ごせる空間となっている。温度・湿度の配慮もされており、気になる臭いもなく、音・光なども適宜調節されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人が使い慣れた馴染みの家具や装飾品、生活用品を持ち込み家庭の延長的雰囲気の中で清潔で安心して暮らせる場所となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。